



MIKI
INTERNATIONAL
ASSOCIATION

VOL.50

2014. 1

平成26年1月

三木市国際交流協会



イギリス



ペルー



ニュージーランド



タイ

ベトナム



インド



中国



ロシア



ネパール

あけましておめでとらります



日本語クラスにおける異文化交流

「こんばんは」「お久しぶり」「お元気ですか」月曜日の夜7時、外国人住民が日本語学習のため、教育センターの一室に集まります。彼らを支援するのは日本語ボランティアの方々。ほぼ1対1で、学習者のニーズに応じた勉強をします。

キャリアアップのために日本語能力検定試験を目指す人々、結婚を機に来日し、生活のために日本語を習得する人々、研修生、実習生など13か国約40名とボランティア30名が集う様子は、まるで空港の国際線ターミナル、誇張するとオリンピックの閉会式での親善交流のようです。主言語は日本語ですが、時には母語のスペイン語、中国語や英語が飛び交います。

“多文化共生” “多様性” 最近よく耳にするこの言葉を肌で実感するこの場は、日本人としての本質を問われる時でもあると意識し、彼らと向き合います。私たち日本人にとっても諸外国の文化、社会を知る良い機会でもあります。日本語学習を通して、もちつもたれつの人間関係を構築し、グローバルな“人づくり”の役目を担うクラスでありたい、そんな思いで「さよなら」「また来週！」と声を掛け合い、レッスンを終了します。



▼丸太切り大会に出場、タッチの差で優勝を逃しました



▼買い物三昧と日本文化に触れた2日間でした

ユンジュン
A1166◆佐野 潤貞 (韓国語講師)

「金物祭りで、韓国人団体の通訳をお願いできますか？」突然の電話に戸惑いました。経験はありませんが、ボランティアということで理解していただき、初めての通訳に挑戦することにしました。

当日はお天気にも恵まれ、会場は大盛況でした。その団体は、韓国の伝統家具などを作る次期人間国宝と言われている方と、その弟子9名でした。さすがに質問も専門的なことばかりで、分からないことだらけでした。しかし、段々質問内容や説明が分ってきて、皆さんから「弟子入りしなよ！」と冗談も言われ、とても楽しい2日間でした。

彼らは口を揃えて「高品質な金物が一ヶ所でこんなにたくさん揃っているのは、世界でも珍しく、とても貴重な経験だ。」と言っていました。未熟な通訳でしたが、皆さんに喜んでいただき、母国の人々と思う存分韓国語を話せて、とても幸せな気持ちになりました。そして、三木市の誇り、“金物”をもっといろんな方に知ってもらいたいです。

PHD協会 “ホームステイプログラム”

モーママ【滞在期間8か月】
(公益財団法人PHD協会ミャンマー人研修生)

私は、11月28日から12月5日まで三木市そうごうほけんふくセンターで勉強しました。そのあいだ、2けんの家にお世話になりました。

はじめは前田さんでした。お父さんはいそがしいけど、まいにちおくりむかえしてくれました。お母さんはとてもあかるくて、かぞくのみなさんはやさしくて、よかったです。私をほんとうのむすめみたいにたすけてくれました。いっしょにゆうきのうぎょうも勉強しました。ゆうきやさいをじぶんでつくってたべることは、からだにいいです。

つぎの赤松さんの家もよかったです。お母さんから、はじめてじぶんできものきかたを勉強しました。お母さんはやさしくおしえてくれました。きものきかたはむずかしいけど、ちょっとわかりました。とてもたのしかったです。ありがとうございました。



▼有機農業を体験して…新鮮で美味しそう!

▶着付け体験をして…おしとやかでしょ?!



A1478◆赤松 早苗 (日本語ボランティア)

元気印の女の子が我が家にやってきました。ミャンマーから一年間、保健等について研修を受けるために来日。メインのホームステイ宅はあるものの各地で研修があるため、その先々でホームステイをしています。

最初の約1ヶ月、日本語を集中的に勉強し、即研修開始。我が家に来た時には半年は過ぎていましたが、喋る喋る。ゼロから短期間で良くぞここまでと驚くばかりです。自分のことはもちろん、ミャンマーの家族や生活、日本のホームステイ先のお父さん、お母さん、そして、研修のことなどなど。

初めての国、慣れない環境の下、自分の村のためにと本当に一生懸命に勉強しています。“村のために”が口癖でした。そして、楽しんでいました。「お父さん、お母さん」と慕ってくれ、遠くに暮らしている娘が急に帰ってきたようでした。最初のホームステイ先で着物を頂いたから、村の皆に着せてやりたいと、2日間で着付けを覚え、私たちに“元気の元”というお土産を置いて別れを告げました。

